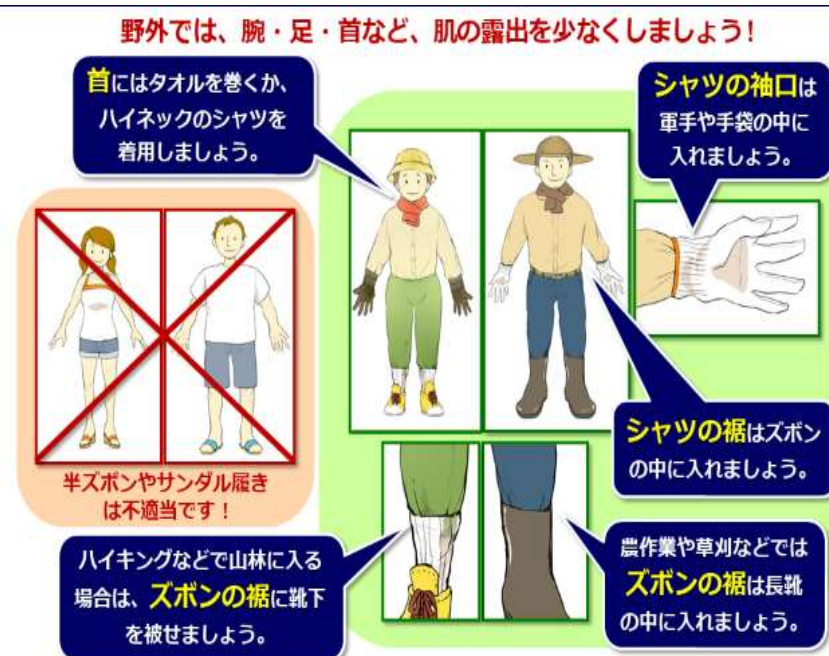


# マダニが媒介する感染症 SFTS（重症熱性血小板減少症候群）が増えています。注意しましょう。

2023.5.17 ICN 中野香織

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、多くの場合、SFTS ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染する病気です。

マダニに咬まれてから 6 日～2 週間程度の潜伏期間の後、38 度以上の発熱や、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）などの症状がでます。重症化し死亡することもあります。



屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認してください。特に、**わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）**などがポイントです。

## ■マダニに刺された場合

マダニ類の多くは、ヒトや動物に取りつくと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いものは 10 日以上）吸血しますが、咬まれたことに気がつかない場合も多いと言われています。マダニが皮膚に吸着しているのを発見した場合は、できるだけ医療機関（皮膚科）で除去してもらってください。無理に取ろうとして虫体を押しつぶした場合、マダニの体液が人の体内に入り感染の危険性が増加します。また、マダニの一部が皮膚内に残ると、化膿することがあります。

マダニに刺された場合は、その後の体調に注意してください。SFTS の潜伏期間は 6 日～2 週間程度だといわれていますので、2 週間後くらいまでに発熱等の症状があらわれた場合は、医療機関を受診してください。